亥の春興

湖注 暈すて高し霞の空遠

可文 鐘入やあとはしらむ山ある

友雀 くくひすの声や小川乃流れ舟

桃宗 香寒く迎へる花て桂ハ

元之 山ま遠るらして色を鶯あり

投巾 門春や供まく百家の賽社

何来 鳥さしの舟繋ぐや麦の中ほへ

錫石 寺見るとちるも麦よ杉と杉

橋々 はれやかにけさる花の木笠

五雪 遠寺の鐘や織乃映とろうえ

川梅 麦のあひろとる中み花蕪

白堂 菫躑躅その香る嶺の名（旅寺）

文笑

蘭更 凧まるひく梢とけぬる孤村外